

令和6年度 第4回 学校運営協議会（議事録）

I 日 時 令和7年3月10日（月） 10:00 ～ 12:00

II 場 所 静岡県立浜松湖東高等学校 小会議室

III 出席者（委員、敬称略）

新井立夫（文教大学教授、会長）、山口権治（第一学院高等学校顧問、副会長）

村松俊司（神久呂協働センター所長）、松浦洋一郎（本校後援会長）

欠席者

鈴木恵子（認定NPO法人魅惑的倶楽部理事長）、神間智博（本校同窓生）

本校職員

渥美真人（校長）、猿田かおる（副校長）、萩原英城（教頭 授業のため欠席）、

諸井康恵（事務長）

IV 内 容

1 校長挨拶

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

3月になり、先日、令和7年度入学生の入試が行われました。学級減となりましたが、定員を超える希望がありました。また、学校運営に深く関わる異動の時期であり、来年度の校内人事についても考え始めなければいけません。

3月1日に卒業式を行いました。卒業生の進路ですが、国公立大学については合格発表待ちの生徒もおりますが、私立大学については青山学院大学や明治大学など有名大学へ合格するなど生徒たちは大変頑張りました。

令和7年度入学生より現在2クラスの特進クラスを1クラスとします。より一層の特色化を図ってまいりたいと考えています。

2 議事（進行：会長）

(1) 令和7年度学校経営計画について

ア 校長より「令和7年度学校経営計画書（案）」の説明

・「カリキュラム・ポリシー」に「探究を軸に」という文言を新たに加える。

・「スクール・ポリシー具現化の柱」

2年生の総合的な探究の時間で取り組んできた「コーポレートアクセス」をシズクリプロジェクトの「エンジン」にする。また、探究プロジェクトで取り組んできた「ジェンダー（平等な社会）」については一定の成果をあげることができたので、文言は削除する。

・「本年度の取組」

分掌（課）の再編を行い、現在の図書・研修課と情報DX課を解体し、探究課と図書DX課を立ち上げる。

職員研修については、これまで「授業改善及び学習評価」に取り組んできたが、「探究学習」を軸とした研修に変えていく。

(2) 委員からの質問・意見等

・「完全退庁時刻20時」については、一般企業も同じであるが、仕事量が変わらないので、結局、次の日に仕事を持ち越してしまうことになる。学校にも繁忙期と閑散期があると思うので、閑散期には早く退庁するようにするなど工夫が必要だと思う。

（校長）そのとおりである。あくまで目安、目標にとらえ、先生方の心理的負担を軽減

できればと考えている。

- ・部活動は生徒たちの成長を促す一助となっているので、将来的になくなってしまうのは残念だと思っている。
- ・学校の特色化のため「探究」に力を入れていくのは大変よいことだ。情緒的交流がないと集団（クラスや部活動など）がうまく形成できない。周囲とは少し違うことを発言する生徒などを集団から排除することのないようにすることが必要。

（校長）「探究」と「面倒見の良さ」を学校経営の中心に据えていきたい。

- ・社会全体で不登校児童・生徒は増加を続けている。通信制の需要も増している。不登校の増加は画一的な教育が理由の一つであろう。不登校からひきこもりへと移行し、社会問題となっている。

(3) 「令和7年度学校経営計画書（案）」の承認

- ・異議なく承認

(4) 意見交換

- ・来年度入学生より特進クラスが1クラスになるのか？

（校長）そのとおりである。少人数で授業展開できるのはメリット。手厚い指導が可能になる。

- ・社会で通用する人をつくるのが「探究」である。自分が困っている、と伝える力が必要である。「みんないいね」で終わりとするのではなく、到達ラインの設定が重要である。また、理系「探究」と文系「探究」には明らかに違いがある。新しいものを一から生み出す（理系）のは難しい。今あるものを組み合わせて新しいものを作り出す（文系）、という考え方の「探究」を構築していくとよいのではないか。
- ・地元で活躍している卒業生が多い（金融業界や商工会など）のが湖東高校である。そういう卒業生と積極的につながりをもつと学校の発展につながると思う。

3 来年度の委員・日程について

(1) 来年度の委員の推薦について校長より説明

- ・新井委員、山口委員、松浦委員が離任。
- ・村松委員は浜松市の人事異動の有無により留任もしくは離任。

(2) 来年度の開催予定について

- ・来年度も年間4回を予定。
- ・第1回目は6月7日（土）文化祭一般公開日 10時から12時を予定。